

《報告》

「食育基本法」前文の英語訳案を 食育等の議論に活用してほしい

足立 己幸¹⁾

今年3月に「第3次食育推進基本計画」¹⁾が、5月には平成27年度版「食育白書」²⁾が公表され、今、全国的に食育をめぐる大きなうねりの時期を迎えている。これらの原点である「食育基本法」³⁾についても、あらためて深い理解や吟味が必要になっている。

一方、日本の食育について、他の国々の行政や関連学会関係者の関心も高く、国際的なワークショップ、専門家研修や大学院の特別講義等で取り上げられる機会が多く、筆者は必要に応じて英語訳を作成し、対応してきた⁴⁾。特に「食育基本法」のコンセプトや法律全体を概観できる「前文」(以下、前文)は、人間の「食」をどうとらえるか、望まれるあり方やその実現方法、とりわけ「食育」という新しい概念について議論のたたき台になることが多く、海外の専門家からの質問も多くあり、英語訳を重視した経緯がある。

行政機関等から公的に「食育基本法」の英語訳が公表されていないために、最近筆者の英語訳を使いたいとの申し入れが多々寄せられるので、今回、研究所年報で公表することにした。多くの人に活用していただければ幸いである。

本英語訳に当たって、まず、「食育基本法」で表記する重要な日本語の概念について学術的な吟味をし、訳出する英語の概念との整合性を検討し、かつ、国際的に公的な場で使用可能な英語表現法でなければならないと考えた。前者について主として足立が食生態学^{5) 6) 7)}を基礎にする食教育や国際栄養学の研究と実践の観点から、栄養教育学等の国際的動向^{8) 9)}をふまえて、検討した。後者について佐藤都喜子名古屋

外国語大学教授(元名古屋学芸大学健康・栄養研究所客員研究員)の協力を得て、主として医学・健康地理学を基礎とする国際協力・政策の観点から、それぞれ吟味した上で、両人で繰り返しの議論を重ねた。佐藤都喜子教授は、ハワイ大学大学院で博士号を取得後、(独)国際協力機構の国際協力専門員として、特にケニア、ヨルダンのプロジェクトリーダー等として、異文化圏での人権・生活向上・地域開発等の施策に実績を重ねた人材である。

とはいえ、英語訳は重視する専門性や使用目的により、さまざまな内容が必要であり、可能なので、本英語訳をたたき台にして、多くの人が議論し、質的に高まることを期待する。

同時に、活用や議論のプロセスで、概念がいまのままに使用されがちな「日本語の専門用語」の概念についても吟味される機会を増えることを期待する。

1. 「食育基本法」前文の日英対訳

前記の経過をふんで、2015年2月に作成した英語訳を別紙1に示す。

「食育基本法」前文の日本語は<http://www8.cao.go.jp/syokuiku/about/law/law.html#zen>で参照できる。

2. キーワードについて英語訳検討のポイント

- (1) 「食育基本法」のタイトルについては、すでに内閣府から公表されている英語訳 Shokuiku Basic Act を用いた。
- (2) 「食育」は内閣府から公表されている Shokuiku を用いた。英語訳は Food and Nutrition Education /Promotion とした。

1) 名古屋学芸大学名誉教授・名古屋学芸大学健康・栄養研究所客員研究員(食生態学、食教育学、国際栄養学)

Education だけでなく Promotion を併記した理由は、「食育基本法」でめざす食育が、狭義の教育的アプローチだけでなく、多様な場、多様なグループや組織、多様な形態ですすめる活動、とりわけ協働・ネットワーク形成・環境づくりを含む多様な活動を特徴とすることにある。

(3) 「食」について Food and Nutrition を用いた。

前文中の16箇所で使用されている「 」付きの「食」がカバーしている概念はかなり広く、記述内容からとらえると、食物の生産・加工・流通・販売・保存・調理・食べる・栄養・健康・生きる力の形成・次の活動の再生産・これらに関する情報の受信・発信・伝承、国内外の流通、教育・食文化等とこれらの関係や循環に及んでいる。これはのちに公表された「食育ガイド」“A Guide to Shokuiku”¹⁰⁾の「食育の環」“(The Circles of Shokuiku (A Holistic View of Food and Nutrition Education/Promotion))” (図1)の視野で理解できる。Diet や Food ではカバーしきれないと考えた。

筆者は、食生態学のキー概念として「人間・食物・環境との関わり」の概念図を作成し、英語タイトルに“Food and Nutrition Dynamics”と名付けて、国際学会等の討論に供してきた(図2)⁴⁾。食生態学ではほぼ同じ視野に”Ecology of Human and Food”を、時には国際誌名でもある“Ecology of Food and Nutrition”を使用するが、研究と実践の対象として、可視的に食の世界を表現するために、Food and Nutrition Dynamics を使っている。しかし、「食育基本法」前文のキーワードとしては単純明快であることを優先し、Food and Nutrition とした。

さて、国際誌等で人間の栄養 Nutrition は前述の生産から食べる、栄養・健康、生きる力の形成等の循環性の高い営みを包括している。この点からすれば、前文の「食」は Nutrition だけでよいことになる。しかし、日本の現状では(残念なことに栄養学専門家の中にも) Nutrition と Nutrients の混用がされ、Nutrition について栄養素に矮小化した認識が少なくないので、Nutrition だけでは「食」の理解がゆがむことを危惧した。

一方、Food も極めて広い概念で、食物の様々

な形態を包括し、ある時は食物にかかわる人間行動を包括して使われることがある。しかし、この場合は食物に中心がおかれ、多様な人間行動や活動、その要因や環境とのかかわりが、背景の一部に扱われることが少なくない。

そこで、前文の「食」の英語訳については、「食」に関する多分野の呼びとや生活者が共有できる英語訳であることを優先し、国連等国際的に慣用されている英語表現に準じる方が良いと考えた。最も身近な World Declaration on Nutrition¹¹⁾は、WHO と FAO の共同で構築され、全世界の施策や活動の基礎になり、すでに第2次世界宣言¹²⁾を公表し、活用されているので、参考に良いと考えた。この中では「食」に該当する英語に Food and Nutrition が使われている。

しかし、実際には前文の文中で「食」と表記していても文意から読み取ると、食の循環全体でなく、その一部を指している場合もある。その時は、Food and Nutrition でなく、それぞれ該当する英語を用いた。

(4) 食物の諸形態や事象等の用語について一貫性がみられないので、調整した。

前文では、(記述順に)食生活、栄養、食事、食文化、食料、食料自給率、食育が使われている。食物のモノとしての存在形態からみると、国や行政レベルで使う食料、(前文には出現しないが)食品、食材、料理、食事、その中に含まれる栄養素等がある。各概念についても諸説があるが、本英語訳では以下のように整理して使用した。

食料：全体を包括しているので Food

食品：流通分野で食物の商品化したものの総称として使われているが、一方学問分野名で食品学が使われていることから、全体を包括した Food

食材：Foodstuffs

料理：Dish

食事：Meal または Diet (これは語源の滋養食に由来して健康や治療食としての意味を強調する食事に使われることが多い)

栄養素：Nutrients

他の用語については、筆者らが作成した「こ

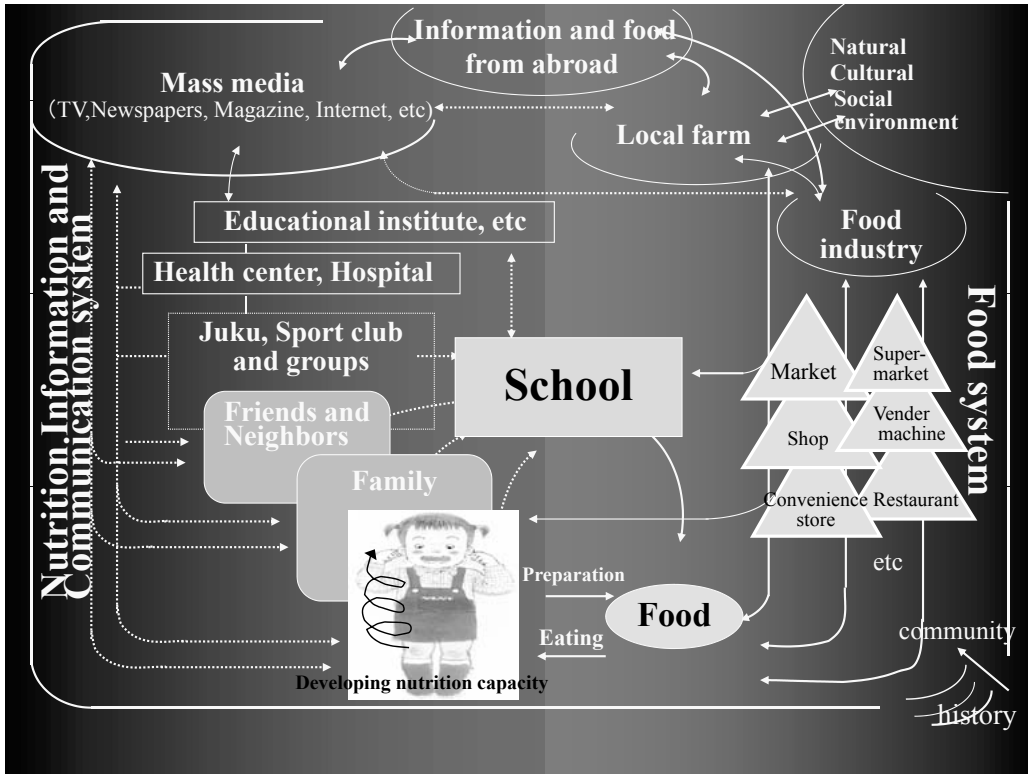


図1 Food and Nutrition Dynamics in the Community (Adachi M.)⁴⁾

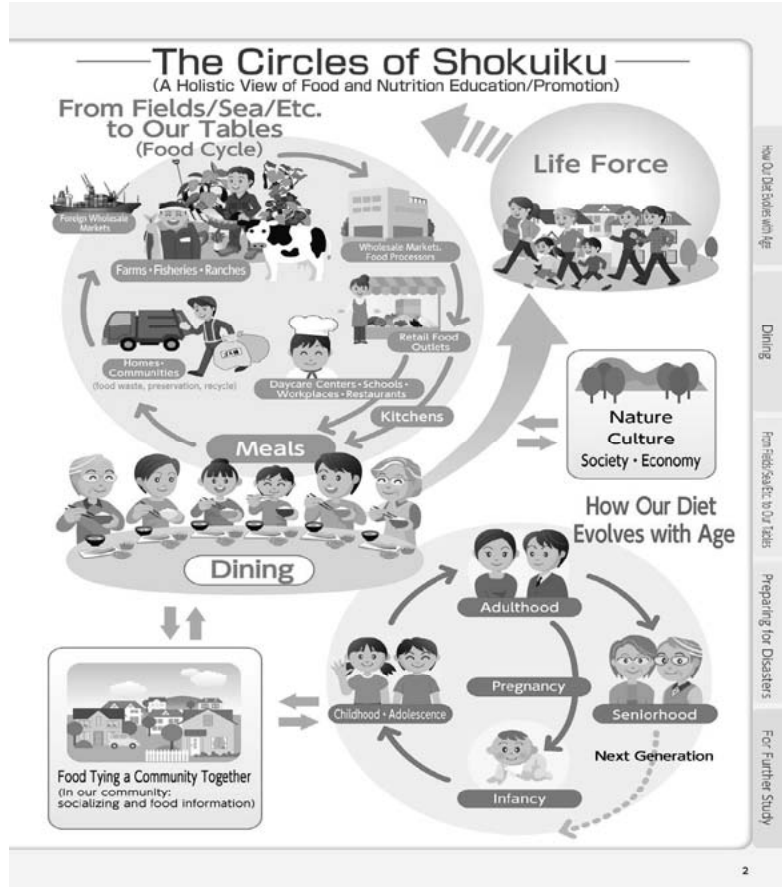


図2 A Guide to Shokuiku. Cabinet Office, Government of Japan¹⁰⁾

れからの栄養教育論—研究・理論・実践の環—
キーワード一覧（日英対照表）」を参考にしてい
ただきたい⁹⁾。

〈参考文献〉

- 1) <http://www8.cao.go.jp/syokuiku/about/plan/pdf/3kisonkeikaku.pdf> (2016年3月アクセス)
- 2) http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h27_index.html (2016年3月アクセス)
- 3) <http://www8.cao.go.jp/syokuiku/about/law/law.html> (2016年3月アクセス)
- 4) Adachi M. Theories of nutrition education and promotion in Japan, enactment of the “Food Education Basic Law”. *Asia Pac J Clin Nutr.* 2008;17 (S1): 180-184
- 5) 足立己幸編著. 食生活論. 東京:医歯薬出版:1987
- 6) 足立己幸. 生活の質 (QOL) と環境の質 (QOE) のよりより共生を. *日本栄養士会雑誌.* 2008;51: 817-822
- 7) 足立己幸. 食生態学—実践と研究. 食生態学—実践と研究. 2008; 1: 2-5.
- 8) 足立己幸、衛藤久美. 食育に期待されること. *栄養学雑誌.* 2005; 63-4: 201-212.
- 9) Isobel R. Contento. 足立己幸、衛藤久美、佐藤都喜子監訳. これからの栄養教育論—研究・理論・実践の環—. 東京: 第一出版: 2015
- 10) http://www8.cao.go.jp/syokuiku/data/guide/index_e.html (2016年3月アクセス)
- 11) <http://www.fao.org/docrep/u9920t/u9920t0a.htm> (2016年3月アクセス)
- 12) <http://sd.iisd.org/news/icn2-endorses-landmark-rome-declaration-on-nutrition/> (2016年3月アクセス)

(別紙 1)

Shokuiku Basic Act Act number 63, June 6, 2005

Preamble

For further development of our country in the 21st century, it is important for children to foster healthy minds and bodies to make them able to take active part in the future and in international society as well as to secure a healthy mind and body for all the nation in order to ensure their activeness for the span of their lives.

In order to cultivate rich humanity and to make our children be able to develop zest for living, what is most important is to educate them about “food and nutrition dynamics”.

Now, once again, Shokuiku (food and nutrition education/promotion), as the foundation for living, is positioned as basics in mental education, moral education and physical education. It is, therefore, being required to promote Shokuiku that will raise a person who can live a healthy dietary life, by improving knowledge and ability to make a decision on “food and nutrition” through various activities and experiences.

Of course, Shokuiku is important for citizens of all ages, but it is more important for children because it makes a big influence on their mental and physical development and the development of their personalities, and also it is a stepping stone for sustaining a healthy mind and body and nurturing rich humanity.

On the other hand, as the social and economic situations are changing at a breakneck pace, people tend to forget about importance of daily “food and nutrition”, while keeping to a tight schedule.

In the dietary life of the nation, in addition to such problems like nutrition unbalance, irregular meal taking, an increasing number of people who suffer from obesity and lifestyle-related diseases and also people who are inclined to get extremely thin, other problems started to occur. These are problems concerning the safety of new “food and nutrition” and addiction to foreign “food and nutrition”. Living in a society overwhelmed with information about “food and nutrition”, it is necessary for people to study what is desirable “food and nutrition”, in terms of improvement of a dietary life and securing safety of “food and nutrition”.

In addition, there is a fear that Japan's food culture, which has been cultivated over many generations, in nature blessed with greenery and rivers, and has regional varieties and a lot of flavors, may be lost.

In such a changing situation surrounding “food and nutrition”, there's a need to cultivate the philosophy of the nation about “food and nutrition” and enhance people be able to practice a healthy dietary life. By keeping on pursuing coexistence of cities and farming/fishing villages and trust between consumers and producers, we expect to empower communities, pass Japan's rich traditions of dietary life, produce ecologically clean food and stimulate consuming and supplying situations.

In order to make people be able to keep to a healthy dietary life, which helps to maintain a good mental and physical condition by raising awareness about “food and nutrition dynamics”, deepening the understanding and gratitude towards people involved in food producing and taking nature's benefits, developing the ability to make appropriate decisions based on reliable information about “food and nutrition dynamics” of every citizen, it is a task that lies upon us, but now it is time as a national movement to keep on making efforts and promoting Shokuiku centering on families, schools, child care centers and communities.

Furthermore, it is expected that through international cooperation, our efforts to promote Shokuiku will lead to contribution to international efforts on Shokuiku.

Therefore, making clear concepts and indicating ways of development, in order to sustain comprehensive and systematic efforts to promote Shokuiku at governmental, national, local and individual levels, this act is to be enacted.

English translation by Miyuki Adachi PhD^{a)} and Tokiko Sato PhD^{b)}

a) Professor Emeritus, Nagoya University of Arts and Sciences

b) Professor, Nagoya University of Foreign Studies

(参考)「食育基本法」 前文

二十一世紀における我が国の発展のためには、子どもたちが健全な心と身体を培い、未来や国際社会に向かって羽ばたくことができるようにするとともに、すべての国民が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるようにすることが大切である。

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。もとより、食育はあらゆる世代の国民に必要なものであるが、子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである。

一方、社会経済情勢がめまぐるしく変化し、日々忙しい生活を送る中で、人々は、毎日の「食」の大切さを忘れがちである。国民の食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向などの問題に加え、新たな「食」の安全上の問題や、「食」の海外への依存の問題が生じており、「食」に関する情報が社会に氾濫する中で、人々は、食生活の改善の面からも、「食」の安全の確保の面からも、自ら「食」のあり方を学ぶことが求められている。また、豊かな緑と水に恵まれた自然の下で先人からはぐくまれてきた、地域の多様性と豊かな味覚や文化の香りあふれる日本の「食」が失われる危機にある。

こうした「食」をめぐる環境の変化の中で、国民の「食」に関する考え方を育て、健全な食生活を実現することが求められるとともに、都市と農山漁村の共生・対流を進め、「食」に関する消費者と生産者との信頼関係を構築して、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境と調和のとれた食料の生産及び消費の推進並びに食料自給率の向上に寄与することが期待されている。

国民一人一人が「食」について改めて意識を高め、自然の恩恵や「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めつつ、「食」に関して信頼できる情報に基づく適切な判断を行う能力を身に付けることによって、心身の健康を増進する健全な食生活を実践するために、今こそ、家庭、学校、保育所、地域等を中心に、国民運動として、食育の推進に取り組んでいくことが、我々に課せられている課題である。さらに、食育の推進に関する我が国の取組が、海外との交流等を通じて食育に関して国際的に貢献することにつながることも期待される。

ここに、食育について、基本理念を明らかにしてその方向性を示し、国、地方公共団体及び国民の食育の推進に関する取組を総合的かつ計画的に推進するため、この法律を制定する。